

75 75期リレーエッセイ

弁護士生活1年目を振り返って

会員 森田 啓正



1 はじめに

私は、75期の一斉登録日である2022年12月8日に弁護士登録をし、2023年1月から実際に弁護士生活が始まることとなった。今回のリレーエッセイの原稿を執筆している8月時点でこれまでの弁護士生活を振り返ると、司法修習修了からあつという間だったという感想が一番に思い浮かぶ。以下で、その弁護士生活やその感想等について述べたい。

2 日々の業務について

私が入所した事務所は取扱業務を特に限定しておらず、私自身も様々な相談・事件に対応する機会があった。それらを通して強く感じたことは、弁護士業務の奥深さに尽きると思う。

一般民事から企業法務等の分野が様々であり、必要となる細かい知識も多いこと、また、具体的な事情によって依頼者対応や相手方等との折衝の進め方も大きく異なることから、私自身のこれまでの司法試験や司法修習で得た知識・経験だけで対応できることは全くなかった。さらに、その相談・事件どれもが、依頼者にとっては今後の生活に影響を及ぼし得る重大な悩みでもあった。そこで、私は、求められる内容は難しく、プレッシャーもかかる弁護士業務をこれからも続けていくことができるのかと、約8カ月の短い期間の中でも何回も不安に思った。それでもなお、弁護士生活を続けることができているのは、先輩弁護士の助けや励まし、そして依頼者からの有難いお言葉のおかげであると思う。

そのため、これまで弁護士業務で培った経験等を周囲に還元できるよう、これまでの延長と思わ

ずに、新たに一つずつできることを積み重ねていきたい。

3 当会主催のクラス別新人研修について

話題を少し変えて、当会主催のクラス別新人研修についても述べたい。これは、その名前のとおり、担任・副担任となる上の期の先輩弁護士2人と75期の弁護士20人弱を1クラスとして、担任・副担任の先輩弁護士に月に約1回ゼミ形式の研修をしていたくというものである。私が所属するクラスでは、研修後の懇親会の開催も恒例となっており、交流が非常に図られる場でもある。

私にとっては、このクラス別新人研修の存在も貴重であった。各事件の相談だけでなく、1年目の弁護士の大変さ等もお互いに話すことができ、新しい発見もあれば自分1人ではないとの安心も感じることができた。クラス別新人研修自体が終了したとしても、クラス別新人研修でできたご縁は大切にしたい。

4 終わりに

今回の75期リレーエッセイの執筆を通じてこれまでの弁護士生活を振り返り、あつという間だったという感想を思い浮かべたのは、それほど充実していたからであるように思える。そうだとすれば、今はまだ、自分自身で成長を実感できる機会は多くないとしても、相談・事件を通じて培った経験が自分の成長に繋がると信じて、今後も研鑽に努めていきたい。また、弁護士業務自体のみならず、新しい趣味なども開拓する等の心身の健康も考えながら、長く弁護士生活を続けていきたい。